



## Ethics

# 倫理学専修

倫理学は、〈ひと〉の生、〈ひと〉と〈ひと〉とがどのように生き・関係し・あることを行うのか、その意味や理由をかんがえる、哲学のひとつの分野としてはじまりました。今日の倫理学（特に応用倫理と呼ばれる領域）は、さまざまな分野や社会の問題と接しながら幅広く展開しています。哲学や倫理・倫理学（英語では同じethics）は、特定の学問分野では収まりきらず、常にそれらを横断してかんがえることです。そのような営みの場所と言ってもよいでしょう。私たちが思い描く「倫理・倫理学」とは、ひとびとが交わり、対話をかきね、生き方や〈ともに生きる〉ということについて、じっくりかんがえることのできる場所です。

こうした倫理学専修の教育プログラムは、大学院での臨床哲学にも接続されています。医療、福祉、教育、芸術、科学技術、セクシュアリティ、マイノリティ、メディア、組織など、社会の中には多様な問題の切り口があります。私たちは、そこに現れた言葉を吟味しつつ、それらに関わる人々と対話や議論を行います。その中で「何が問題であるのか」を探し出し、研究プランをデザイン・遂行しようとしています。

<https://rinshotetsugaku.com/>

(大阪大学文学部倫理学／大学院人文学研究科臨床哲学研究室公式HP)

## 教員

ほりえ・つよし

堀江 剛 教授

ほんま・なほ

ほんま なほ 教授

こにし・まりこ

小西真理子 准教授

にしむら・たかひろ

西村高宏 准教授

## 何を学んでいるの？

### 倫理学講義

西洋中心の哲学・倫理学説が目に向けてこなかった視点からなる「新しい倫理学」を提示する。そこから現代の道徳規範や諸問題を批判的に考察するとともに、問題となる状況を生き抜くひとたちの生き方から倫理学を考える。

### 倫理学演習

わたしたちが生きるこの社会の中のみさまざまな問題を倫理的に考え、書くしかたを「レシピ」に喩えて学ぶ。倫理学をできあがった学説や理論としてではなく、他者とともに作り、あじわい、批評する一連の行いとして、やってみよう。

## どんな授業があるの？

### [講義題目]

社会哲学講義：

コミュニケーションの哲学

ジェンダー・セクシュアリティ研究

基礎特殊講義

臨床哲学講義：〈臨床哲学〉という試み

臨床哲学講義：ケアの倫理と臨床哲学

### [演習題目]

対話技法論演習：

ソクラティック・ダイアログ

ジェンダー・セクシュアリティ研究

基礎演習

社会哲学演習：応用倫理文献講読

臨床哲学演習：ケアの倫理を読む

## 教員が選ぶ印象に残った卒業論文

### ラベリングの困難性に見る、アダルトチルドレンと毒親の倫理

自らをアダルトチルドレン（家族に起因するトラウマを抱えている人）だと認めることに伴う困難性に着目することで、臨床家らによって有害だと否定されがちな「毒親」概念が、いかなる状況においても一貫して虐待された子どもの立場に寄り添う概念であることを論証した。（選：小西真理子准教授）

### [卒業論文題目]

教育における発達の批判的検討：

すべての子どもが共に学べる教育に向けて

「生まれてきたくなかった」という声：

出生に関する議論で見落とされてきたもの

ドーピングはなぜいけないとされるのか：

エンハンスメント議論を中心に

## 研究することは、自分がどう生きるかに関わっています。

研究室レポート

### 研究テーマと研究室の魅力は？

**中野** 僕は発達障害のある子どもをもつ親の研究をしています。この研究室の魅力は、親と子の関係など、人と人との関わり方に目を向けて研究できるところです。

**廣畑** 私は性風俗に通う男性客について研究していますが、この内容は他の場所では話しにくい。そういう研究でも、学生も教員も真摯に耳を傾けてくれる安心できる場所です。

**瀬崎** コロナ禍における自由について研究しています。研究テーマがみんなバラバラなので、偏見をもっていたことも含め、自分の世界がどんどん広がっていくという魅力があります。

### 研究室で学んで変化したことは？

**中野** いろんな人がいるということ、を改めて知れたのが一番大きいです。自分の生き方だけでなく、他の人の生き方を考えながら人と関わるようになりました。

**廣畑** 自分の見ている世界が他者と共有されているとは限らなくて、自分が伝えたいことを言葉にしていくということを丁寧にやる必要性を学べました。

**瀬崎** 自分が今まで考えたことがなかった世界があることや、その世界に生きる人を尊重するということを学んだとき、だんだん人間を愛せるようになりました。

### 後輩に向けて一言！

**中野** いろんな人のことを考えられ

るようになる場所がここなのかと思います。人の見方や生き方について、人とかかわりの中で考えたいことがある人はぜひ来てください。

**廣畑** 自分の強い関心があれば、それがどんなものであれ絶対に尊重して共に考えてもらえる環境だと思うので、そういう志がある人に来てほしいです。

**瀬崎** 人の生に興味がある人が、いろんなヒントを得られる場所なのかなと思います。応用倫理を学びたい人もお待ちしております。

[インタビュー協力]

廣畑志織さん(当時4年)

瀬崎涼さん(当時3年)

中野一貴さん(当時3年)



## 研究室に関わる書籍をご紹介します。

書籍紹介



『こどものつがく：ケアと幸せのための対話』シリーズ臨床哲学3巻  
鷺田清一：監修／高橋綾・ほんまなほ：著  
大阪大学出版会／2018

子どもや若者たちと対話しながら、日々おもうこと、かんがえたことないこと、いえないうこと、いいたいことを、すこしずつ、積みかさね、「哲学」ではない、愛と幸福と知恵がつかがる「フィロソフィ」の原点にたちかえります。



『ソクラテック・ダイアログ：対話の哲学に向けて』シリーズ臨床哲学4巻  
中岡成文：監修／堀江剛：著  
大阪大学出版会／2017

専門的な知識に頼らず、対話を通して「哲学する」魅力。ソクラテック・ダイアログは、少人数の参加者で行う哲学対話ワークショップの方法です。その歴史・ルールなどを、いくつかの事例とともに紹介します。



『共依存の倫理：必要とされることを渴望する人びと』  
小西真理子：著  
見洋書房／2017

病理と非病理、偽物の愛と真実の愛、不幸と幸福、支配・従属と支え合い。多くの両義性を抱える「共依存」をめぐる言説を分析することで、臨床の専門家や各領域の理論家が見逃してきた倫理を提示します。